

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 97

2016年1月19日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、糠谷 明 先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 静岡大学インキュベーション施設の入居者募集案内
2. 「利益相反セミナー」を開催します
3. 「産学連携学会第14回大会（浜松大会）」を開催します
4. 静岡大学浜松キャンパス共同利用機器センター「第2回分析基礎講座」ご案内
5. 「第3回HEPTコンソーシアムフォーラム」ご案内
6. 「ベアリングレスモータ・超高速モータの最新技術動向に関するミニシンポジウム」開催のご案内

※問合先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

1. 静岡大学インキュベーション施設の入居者募集案内

静岡大学イノベーション社会連携推進機構では、静岡大学発ベンチャー企業の育成と支援、大学シーズの活用を希望する地域企業とのマッチング支援等を行っております。

そうした中、静大発のベンチャー企業の育成支援の一環として、浜松キャンパス（静岡県浜松市中区城北3-5-1）に所属する教員の研究シーズを活用した事業化や教員の研究シーズを利用した地域企業や学生等による事業化準備を対象としたインキュベーションルームの2016年度入居申込み受付を開始しましたので、ご案内します。

募集するインキュベーションルームには、40平米の実験室タイプ9室と、21平米のオフィスタイプ5室があります。

原則として利用期間は1年間ですが、起業化計画の進捗度に応じて最大で3年間の継続利用も可能です。

インキュベーションルームの使用料は、原則『無料』です。
(水道光熱費・通信費については実費ご負担いただきます)

イノベーション社会連携推進機構産学連携推進部門では、インキュベーション施設の入居者に対して事業化に向けたビジネスプランのブラッシュアップ、資金計画、販路開拓等について積極的にバックアップさせていただきますので、ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

【詳細】（募集要項と申請書）

http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/inno_event002375.html

【提出期限】2016年2月1日（月）

※現在入居中の方も、入居3年未満であれば来年度の継続利用申し込みができますが、その場合も利用申請書は提出していただきます。

【問合先】静岡大学イノベーション社会連携推進機構

2. 「利益相反セミナー」を開催します

大学の「第三の使命」が産学官連携等を通じてより直接的に社会との関わりを持ち、社会貢献を果たしていくことであると言われだしてから、既に10年以上経過しております。その間、社会との関係が密接になっていくことと比例して、大学ではこれまであまり意識されなかったリスクが発生しております。こうしたリスクを事前に察知して、それらをマネジメントすることは、大学が社会からの信頼を維持しながら、その本来の使命を果たしていく上で欠くことのできない活動です。

今回はそうしたリスクの一つである「利益相反」とそのマネジメントについて、専門家である筑波大学の^{新谷由紀子}准教授を招きセミナーを開きます。

【日 時】2016年2月2日（火） 13：30～14：30
【場 所】静岡大学浜松キャンパス S-Port3F 大会議室

【講 師】筑波大学 利益相反・輸出管理マネジメント室
准教授 新谷 由紀子 氏

【対 象】大学等の教職員、公的機関のコーディネーター
【参加費】無料

【主 催】東海イノベーションネットワーク（東海iNET）

【申込・問合せ先】
東海イノベーションネットワーク事務局
TEL：053-478-1666
FAX：053-478-1719
E-mail：tinet[at]cjr.shizuoka.ac.jp

3. 「産学連携学会第14回大会（浜松大会）」を開催します

産学連携学会（浜松大会）を下記の要領で開催いたします。
たくさんの方々のご発表・ご参加をお待ちしております。
なお、参加登録等の詳細のご案内は1月下旬を予定しております。

【開催の趣旨・目的】

産学連携学会は、産学連携に従事する人、産学連携を必要とする人、産学連携を支える人、産学連携に関心のある人すべてを対象とし、産学連携学の確立及び産学連携の発展をとおして、学術や技術の促進と豊かで個性と活性に富んだ社会構築に寄与することを目的として活動しています。

産学連携に関する諸課題について、産学官の学識経験者や実務家などが広く交流し、相互に啓発しあう場として、下記により第14回年次大会を開催します。学会員はもとより産学連携に関心のある方々の多くの参加をお願い申し上げます。

【日 時】

2016年6月16日（木）、17日（金）

【会場と概要】

(1) 会場

○アクトシティ浜松
研修交流センター・コンgresセンター
〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1
TEL 053-451-1111
URL <http://www.actcity.jp/>

○情報交換会（16日（木）18：30～20：00）
オークラアクトシティホテル浜松
〒430-7733 静岡県浜松市中区板屋町111-2
TEL 053-459-0111
URL <http://www.act-okura.co.jp/>

(2) プログラム構成

- 1) 特別講演
- 2) シンポジウム
- 3) 一般講演
- 4) オーガナイズドセッション
- 5) ポスターセッション

(3) 大会参加費

正会員/個人法人	(予約)	5,500円	(非予約)	6,000円
正会員/学生	(予約)	2,500円	(非予約)	3,000円
非会員	(予約)	8,000円	(非予約)	9,000円

(4) 情報交換会参加費

正会員/個人法人	(予約)	5,000円	(非予約)	6,000円
正会員/学生	(予約)	2,500円	(非予約)	3,500円
非会員	(予約)	5,000円	(非予約)	6,000円

【参加登録期間・要旨提出期限】

- 1) 発表・参加登録期間 1月下旬～4月7日（木）
- 2) 発表要旨提出期限 4月14日（木）

【組織】

大会事務局
国立大学法人静岡大学

産学連携学会第14回大会実行委員会
大会長 伊東 幸宏（静岡大学長）
副大会長 今野 弘之（浜松医科大学医学部附属病院院長）
実行委員長 木村 雅和（静岡大学イノベーション社会連携推進機構長）

【お問い合わせ】

産学連携学会第14回大会実行委員会事務局
E-mail : [sangaku2016\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangaku2016[at]cjr.shizuoka.ac.jp)
Tel : 053-478-1702 Fax : 053-478-1711

しずだい産学連携メールマガジンVol197

いつも浜松キャンパス共同利用機器センターをご利用いただき、ありがとうございます。さて、昨年度に引き続き、今年度も当センター主催の分析基礎講座を下記の要領で開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【日 時】 2016年1月22日（金）10：00～16：30
【会 場】 静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館ホール
【参加料】 無料
【対 象】 学生・教職員・一般（どなたでも）
【定 員】 100名（先着）

【プログラム】

講義 光分析機器の基礎と応用～紫外可視・赤外・蛍光・ラマン～
佐藤慎也氏（ジャスコエンジニアリング株）
講演 1. バイオ領域の電子顕微鏡
牛木辰男氏（新潟大学医学部教授）
2. 拡がるSEMの可能性～ここまで進んだ大気圧走査電子顕微鏡～
大南祐介氏（日立ハイテクノロジーズ）

【詳細】

<http://kyodoriyo05.eng.shizuoka.ac.jp/HP/files/2016分析基礎講座ポスターA4.pdf>

【問合せ先】

静岡大学浜松キャンパス共同利用機器センター 特任助教 新村千江
TEL:053-478-1756 FAX:053-478-1020
E-mail:shimmura.chie[at]shizuoka.ac.jp

5. 「第3回HEPTコンソーシアムフォーラム」ご案内

組込みソフトウェア技術コンソーシアム（HEPTコンソーシアム）は、地域産業の組込み開発技術の向上に寄与することを目的として、平成25年1月に設立致しました。設立3周年のイベントとして、第3回HEPTコンソーシアムフォーラムを下記の通り計画しておりますのでご案内申し上げます。

今回のフォーラムでは、基調講演に清水メディア戦略研究所 代表取締役 清水計宏氏をお招きし、2016 International CESに見る電子機器・サービスの最新動向と方向性についてご講演頂きます。更に、講演として マイクロソフト株式会社 テクニカルエバンジェリスト 太田寛 氏にIoT の概要、IoTを実現する各種サービスと技術、開発方法、各種適用事例についてご講演頂く予定であります。

【日 時】 2016年2月8日（月）
【場 所】 プレスタワー17F 静岡新聞ホール
（静岡県浜松市中区旭町11-1）

【主 催】 浜松市、静岡大学、組込みソフトウェア技術コンソーシアム、
公益財団法人浜松科学技術研究振興会

【参加費】 無料（フォーラム後の交流会ご参加の際は4,000円）

【詳細・申込】 <http://bit.ly/hept-3rdforum>
【パンフレット】 <http://bit.ly/hept-3rdforum-pdf>

6. 「ベアリングレスモータ・超高速モータの最新技術動向に関するミニシンポジウム」
開催のご案内

ベアリングレスモータは、回転子を磁気力により非接触で支持する『磁気浮上モータ』です。
本シンポジウムでは、北海道大学、東京工業大学、東京都市大学、諏訪東京理科大学、
および静岡大学におけるベアリングレスモータと超高速モータの最新技術動向・研究成果
に関する講演会を行います。
企業の方でもご興味のある方は、ぜひご参加ください。

【日時】 2016年3月3日（木）、4日（金）

【会場】 静岡大学 浜松キャンパス

【参加費】 無料

（人数把握のため、下記のサイトから参加登録をお願いいたします）

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tjasama/>

【懇親会】 有料

* 開催場所、懇親会料金は参加お申込後お知らせいたします。

【プログラム】

[3 日]

13:30 ~ 13:40

「開会のあいさつ」 深尾 正（東京工業大学 名誉教授）

13:40 ~ 14:20

「ベアリングレスモータドライブシステムの簡素化・低コスト化」 朝間 淳一（静岡
大学 准教授）

14:20 ~ 15:00

「磁気浮上と補助人工心臓」 進士 忠彦（東京工業大学 教授）

15:10 ~ 15:50

「低電圧大電流超高速PM モータの開発」 野口 季彦（静岡大学 教授）

15:50 ~ 16:30

「10万rpmにおける超高速ベアリングレスモータの実負荷試験と運転特性」 竹本 真
紹（北海道大学 准教授）

17:00 ~

懇親会

[4 日]

9:30 ~ 10:10

「100kWベアリングレスPMモータの設計検討」 千葉 明（東京工業大学 教授）

10:10 ~ 10:50

「低速・大トルクベアリングレスバーニアモータの研究」 土方 規実雄（東京都市大
学 助教）

11:00 ~ 11:40

「1軸及び2軸能動制御型ベアリングレスモータの研究開発」 杉元 紘也（東京工業大
学 助教）

11:40 ~ 12:20

「dq軸電流制御ベアリングレスモータの研究開発」 大島 政英（諏訪東京理科大学
教授）

12:20 ~ 12:30

「閉会のあいさつ」 千葉 明（東京工業大学 教授）

【主催】 公益財団法人 浜松科学技術研究振興会

【問合せ先】 静岡大学工学部機械工学科 朝間
TEL : 053-478-1033 FAX : 053-478-1041
E-mail : asama [at] shizuoka. ac. jp

《 みんなのコラム -91- 》

記：農学部 共生バイオサイエンス学科 教授 糠谷 明

大学の役割は、教育、研究、地域連携です。教育と研究は車の両輪のようなもので、研究の裏打ちがあって始めて世の中をリードできる教育ができるものと思います。地域連携はこの2つの輪を結びつけており、最先端技術育を学んだ、あるいは学ぶことの出来る人材を世に送り出すことが大学の役割のひとつです。昨今文科省は「理工系人材の育成」、「高度専門職業人の育成」を謳っていますが、静大総合科学技術研究科（理学、工学、情報学、農学専攻）はこれらの役割を果たすために、産学連携を図りながら努力を重ねているところです。

私は農学部で野菜園芸学を担当しています。近年の研究テーマは「太陽光型植物工場における果菜類（トマト、メロン、イチゴ）栽培の生産性向上」です。私の初期（1970～80年半ば）の研究は、養液栽培を実験手法として塩類過剰障害の軽減に関する研究を行っていましたが、その後養液栽培による生産・肥培管理に関する研究に移行し、2000年以降は施設栽培における地上部・地下部の環境を総合的に管理する研究が中心となりました。これら一連の研究を通して、農業生産は「経験と勘」に頼るのではなく、データに基づくサイエンス農業に移る必要があることを確信しました。これをキャッチコピー風に表現すると「理屈でトマトを作る」ということになります。2009年には、大学で培った教育・研究機能、技術ノウハウを生かし、地域・社会生活に貢献することを目的に、静大発ベンチャー企業「㈱静岡アグリビジネス研究所」を農学部付属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド内に設立しました。

私のこのような研究の進展と実用化を支えてくれたのが、生産者や関連企業との情報交換や共同研究でした。もちろん基礎的・理論的で農業の発展につながる研究は多々ありますが、農学分野の研究といえども、研究のための研究でしかない研究も時々みられます。研究者としては、現場での問題を拾い上げ、将来の農学、産業に貢献する基礎的・応用的研究を行うことが必要です。それらの問題を発見させてくれるのが、産学連携であると信じています。

<< 編集後記 >>

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。皆様のおかげで様々なイベントを開催することができ、多くの方にお越しいただきました。
静岡大学は昨年、文部科学省平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に選定されたということもあり、今年はいよいよ一層地域に密着した連携体制を構築していきます。
本年もより一層尽力をしてまいりますので、昨年同様のご支援ご協力を賜りますようお願い致します。

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * —

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・
ページ(6)

しずだい産学連携メールマガジンVol197

配信中止のご連絡は、sangakukoho5[at]cjr.shizuoka.ac.jp まで
お願いします。(↑送付の際は[at]を@に変更してください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：谷口悠里

発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

TEL 053-478-1413

URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

Copyright (c) 2008-2016

Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved